

平成30年度 地域における家庭教育支援基盤構築事業 研修会 概要

核家族化や地域社会のつながりの希薄化等を背景として、子育ての悩みや不安を抱えた保護者の増加等、家庭教育の困難な現状が指摘されています。そうした中、本県においては地域の実情に応じた家庭教育支援の取組が展開されています。そこで、家庭教育支援や子育て支援関係者等が一堂に会し、今、求められる家庭教育支援のための体制整備に向けた具体的な手立てを学ぶ機会として開催しました。

◆日 時 平成30年6月15日（金）13:20～16:30

◆会 場 滋賀県庁東館7階大会議室

◆参加対象

- ・国庫補助事業「地域における家庭教育支援基盤構築事業」実施市町担当者
- ・家庭教育支援員、家庭教育支援チーム員、子育てサポーター等
- ・民生委員・児童委員、社会福祉士
- ・各市町生涯学習・社会教育関係者、学校教育関係者、PTA関係者
- ・滋賀県社会教育委員、各市町社会教育委員、公民館職員
- ・滋賀県「学校を核とした地域力強化プラン」に係る推進協議会委員
- ・家庭教育支援に関心のある方

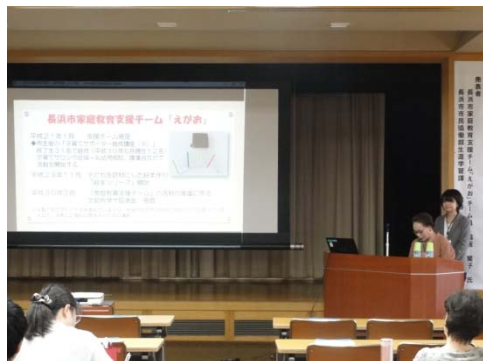
◆参加者数 30名

◆内 容

○事例発表 演題：長浜市家庭教育支援チーム「えがお」の取組について

事例発表者：長浜市家庭教育支援チーム「えがお」チーム員 脇坂 繁子 氏

事例発表では、平成29年度「家庭教育支援チーム」の活動の推進にかかる文部科学大臣表彰を受賞された長浜市家庭教育支援チーム「えがお」チーム員の脇坂繁子氏より、絵本を作ったり、遊んだりすることの実践からお母さんが笑顔になれば、子どもも笑顔になれると、これまでの取組を発表いただいた。



○講 演 演題：「今、求められる家庭教育支援について」

講師：九州女子大学 教授 大島 まな 氏

講演では、大島氏より少子高齢化、核家族化、伝統的共同体の崩壊等、社会が変化する中で親の意識・価値観も多様化している。そうした中、家庭教育は学校教育、社会教育と異なり、制度のない非定型な教育であるといった特徴がある。また、家庭は「私的領域」であるため、他人が入り込めないプライベートな領域である。家庭教育支援を必要としている親は潜在しており、引き続き、啓発、条件整備のための努力が求められる。子どもは「社会の宝」であり、すべての子どもの健全な発達のために「子育ての社会化」、「つながり」が大切であると御示唆いただきました。



○意見交流

日々の取組の中で感じていることや考えていること、相談したいこと、所属での活動等の交流をとおして、各市町において求められる家庭教育支援方策について交流を図りました。



○参加者の声（抜粋）

- ・人が集い語り合う場所づくりが大切だと改めて感じました。
- ・私自身がこの場で皆さんの御意見を聞いたり、自分の考えを話したりしながら、これからの活動へのパワーやヒントをたくさんいただきました。
- ・事例発表については、自分の市でも取り組んでいけると思える内容で、大変参考になりました。
- ・様々な事業、取組のもとになるのは人と人とのつながりであることを再認識しました。
- ・今年になり役をして改めていろいろな方が、いろいろな所で子どもたちを守ってくださるのだと感じている現状です。つながることの大切さを身にしみて感じています。